

新幹線プレス

2017年4月26日 No.347

発行者 成田 隆 浩

編集者 教 宣 部

J R 東海 労 新 幹 線 地 本

経営協議会報告・・・Ⅱ

「新幹線車内業務の見直し」は労働条件の変更だ！ 団体交渉を開催せよ！！

新幹線車内業務の見直しは、車掌の乗り組み数の変更や JRCP（パーサー）へ車掌業務の委託を拡大するなど、現行の業務体制が大幅に変更になり労働密度が濃くなることから、あきらかに労働条件の変更であり団体交渉開催を求めました。しかし会社は、「仕事の進め方の変更であり労働条件の変更ではない。仕事の密度が濃くなることは労働条件の変更とは考えていない」として団体交渉の開催を拒否しました。

会社は労働組合と真摯に向き合い団体交渉を開催し協議するべきです。

車掌とJRCP（パーサー）の労働強化に繋がる 車内業務の見直しに反対！！

新幹線車内業務の見直しは、車掌及び JRCP（パーサー）の労働密度が濃くなり、労働強化に繋がるため認められないと組合から主張しました。これに対して会社は「車内改札をゲーター改札に変更したことにより生み出された時間を活用していく。JRCP には委託業務を拡大するが、しっかりと教育をおこない責任を持って業務をおこなってもらおう。対応は可能と考えている」と、まったく誠意のない回答に終始し、対立のままとなりました。

お身体の不自由な方や弱者に対するサービス低下に繋がる 車内業務の見直しに反対！！

お身体の不自由なお客様や弱者に対する対応が著しく低下することが懸念されるため認められないと組合は主張しました。しかし、会社は「不安に思っていることは意見として伺っておく。会社の考えとしては、乗車・降車の手伝いはしっかりやっていたら。状況によっては、多少の時間がかかってもやむを得ない」と回答し、改善の意思が感じられませんでした。

また、デッキ待ち承認について、列車の到着直前にお客様がデッキに移動される時に列車の揺れなどで怪我をされる危険性があるとの組合の主張に対して、会社は「改札業務の見直しで新たにどうしようという具体的なものはない。列車が止まってから移動してもらうようお願いしてください。目の不自由なお客様に対しては可能な限り見守っていただきたい。現場の方にはお願いしている」と回答し、何ら具体策を持ち得ていないことが明らかになりました。さらに取り扱い件数が増加している状況についても、会社は「状況を見て適切に対応していく必要があると認識している」とし、サービス低下を払拭するような回答はなんら得られませんでした。

労働強化とサービス低下に繋がる「新幹線車内業務の見直し」反対！！